

# 教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)  
予約購読料 1年分 千共 5,000円  
紙代のみ 3,500円  
振替 00140-9-145275  
本紙を購読ご希望の方は、前金を  
そえて、お近くのキリスト教書店  
へお申し込み下さい。  
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546  
FAX 03(3207)3918  
E-mail: shimpoh-c@uccj.org  
発行人 竹前 昇  
編集主筆 竹澤 知代志  
印刷所 株式会社きかんし

## ユースミッション2006

### 青年の、青年による、青年のためのカンファレンス



台湾から来日した青年たち

## 台湾から青年を迎えて交流の時

### 台湾基督長老教会との共同声明が具体化

八月七日から九日までの三日間、九段教会と韓国YMCAとを主たる会場として、教団主催による青年カンファレンスが開かれた。『青年の、青年による、青年のための青年カンファレンス、「ユースミッション2006」』がそれである。青年宣教会議が教団紛争のおおりのなかで開催できなくなつてから三十有余年の時を経た今日、紛争の頃には未だ生まれていない青年たちによって、恵みのときが共に持たれた。

## カンファレンスとホームス

### 一、台湾から青年を迎えて

日本基督教団は、昨年、宣教協力を結んでいる台湾基督長老教会との協議会において共同声明を発表した。この会は、その一つを具体化したものであり、台湾の教会青年を日本に迎えて開催された。

なお二〇〇四年、二〇〇五年には、日本の青年が数名、招かれて台湾基督長老教会の青年大会に参加して

いる。

教育委員会は、教団役員

会の委託を受け、学生キリ

スト教友愛会(SCF)や

全国教会婦人会連合を交え

た実行委員会を組織し、教

会青年を含めて、教団とし

てのカンファレンスが行え

るよう準備を進めた。

私たちは第32回教団総会

で「青年伝道に力を注ぐ」

決議をした。それが思いが

けない仕方でありへと向か

つたと言えよう。

台湾の青年たちは三日に

来日、四日に三崎町教会に

おいて大宮溥牧師(SCF

理事長・世界宣教委員長)

の説教による歓迎礼拝を共

にした。その後、カンファ

レンス(七日〜九日)前後

にホームステイ(四日〜七

日と九日〜十一日)へ出か

け日本の夏を経験した。

三、豊かな交わり

台湾の青年たちは、北海

道と西日本でのホームステ

イを終えて、七日、九段教会に集まった。日本の青年と合流し、カンファレンスの幕が開いた。山北宣久教団議長による開会礼拝で始まり、早速、交流会を行った。初めて出会う青年たちもすぐ打ち解け、豊かな交わりを構築していった。前述のとおり、カンファレンスは青年たちによる小委員会主導で実施されたの

## 共に豊かな恵みを味わいつ

### 三、豊かな交わり

で、司会進行をはじめ、殆どの部分で青年たちが自主的に行うこととなった。開会礼拝を除く多くの場面で牧師たちには出番がなかったこと、教団所属の台湾教会の青年たちが通訳をはじめ、様々な奉仕を担ってくださったことは、特筆すべきであらう。

二日目(八日)午前には日本、台湾それぞれ二人ずつが、発題をした。教会生活と世俗生活の狭間に多くの課題を持つつも御言によつて励まされる恵みにつ

いて語られ、一同、多いに共感をもった。

平和、伝道、教育、環境、人権の五つの分団を持ち、少人数でお互いの問題を共有した。

二日目の夜は文化交流。参加者全員で作った餃子を囲みつつ交わりを深めた。在日大韓基督教教会青年委員会の有志も駆けつけ、交わりをより深いものとしてくださった。日本の青年が時

間をかけて準備し、日本の文化とキリスト教の歴史をまとめた、パワーポイントに

師で自身もカンファレンスに参加してくださった。

二、青年の自主的運営

実行委員会組織は前述のとおり、教育委員会を中心とした複数団体によって構成され、教育委員長が実行委員長になったが、プログラムの多くは、教会青年が中心となったカンファレンス小委員会によって運営された。SCFが集まっている青年が中心となり、教団立神学校である東京神学大学の神学生三名も委員に加わり、千原創SCF主事のもとに、度重なる打ち合わせを繰り返し、献身的に奉仕してくださった。

よる発表は見応えがあり、台湾青年たちの歌と踊りは感激であった。さらに、滞日中のアメリカ青年の参加者も歌を披露、キリストの名による一致を深いものとしてくださった。

三日目(九日)。主による信頼関係によって結ばれた絆によって、青年の、青年による閉会礼拝を行うべく準備をした。青年が準備した祈りと証しを中心とした礼拝は、後半のホームステイ先の方々を迎えて守られた。そして豊かな恵みを味わいつつ、三十有余年ぶりの青年カンファレンスは幕を閉じた。

### 四、共に遣わされよう

十一日、ホームステイを終えた台湾青年たちは千葉本町教会へ。青年の委員共々、派遣礼拝を守った。説教は台湾基督長老教会青年担当幹事伊藤巴瓦瓦隆伝道師。六〇名を超える会衆で熱気に包まれ、礼拝後の交わりも夜遅くまで続いたことは、ユースミッションの恵みの大きさを物語る。



初対面でも直ぐに打ち解け、和やかに



少人数の分団で語り合い、互いの問題を共有

かったといえよう。また、教団内の台湾諸教会とのパイプも重要であった。このために祈り、献げ、支えてくださったすべての方々に感謝しつつ、神さまに栄光を帰す。

(岸憲秀報)

## 荒野の声

▼新幹線で、品の良い老夫婦と相席した。夫婦は、周囲の迷惑にならないよう

に、小声で会話している。

興味深い話題について聞き耳を立てたくなる。しかし、

何より惹かれたのは、二人が互いを、名前にさん付け

で呼び合っていること。▼

数十年前の教会にも、互いをさん付けで呼び合う「品の良い」夫婦があった。新婚の我が妻は、この夫婦に憧れて、これに真似た。照れ臭かったが、まんざらでもなかった。▼しかし、その年の内、子供がお腹の中にできた途端に、呼び名は「お父さん」に変わった。

夫であつて父ではないと抵抗したが、空しく敗れた。

▼今、飼犬の「お父さん」にまで、降格している。ご近所の人にも、○○ちゃんのお父さんと呼ばれる。

この犬が子犬を産んだらと、想像するのも恐ろしい。

▼「親しき仲にも礼儀あり」

「親しんで慣れぬが良し」

「ゲテ」そういう次元の話ではない。互いに尊敬の思

いを持ち、労り、優しく語

り合う。なんと美しい。年

月によって熟成された真の

愛が伝わって来るようだ。

「ユースミッション2006」は大きな恵みを得た。しかし同時に課題も見えた。たとえば、教区からの参加者が稀少であったこと。これは教団主催の会として課題である。また、台湾では青年担当が組織上位置づけられているが教団にはない。そこで、こういう会を運営していくときに無理が出る。そういう意味では、SCFの動きは大き



全国教会青年同盟・教会青年・夏の修養会

キリストと教会に仕える

「全国教会青年同盟・教会青年・夏の修養会」には今年、九名の青年が参加した。講師、スタッフと合わせ十七名で、八月三日から二泊三日を軽井沢に過ごした。

「キリストと教会に仕える」との主題により、東京神学大学から近藤勝彦教授を講師として迎えた。二度の講演と、最後の閉会礼拝によって皆さんに『訴える機会』を持てることはまことに幸い」と、実に率直に、「キリストに仕えること」

陸アメリカに渡ったビューリタンたちの信仰の決意、熊本・花岡山に集った青年たちの信仰の決意表明を紹介した。そして、今回の開催地、軽井沢も多くの「キリスト教的人生の意思決定が行なわれてきた地」として今回の修養会参加者が、神の意志を尋ねて、「それぞれのキリストの人生を新しく歩み出す機会とされた」とした。

現代、社会に噴出してきている問題を「人間問題」と捉え、根源に人間の罪があり、その人間がどれほど神から愛された存在であるかを忘れてしまっている。社会を救う「よいサマリヤ人」を世界が必要としているが、人間は、自身がよいサマリヤ人になろうとして傷ついている、と説く。

講師は、自身が青年の頃に参加した修養会の経験から、キリスト教信仰における決意について語り、新大

「キリストに仕える」とは、まず私たちを知っておられ、私たちのためによいサマリヤ人となられたキリストを知ることからはじまる。私たちの挫折によって

も妨げられることのない深いものがある、と伝えた。「教会に仕える」三つの局面として、神に仕える兄弟姉妹に仕える「信徒の交わり」、「愛の奉仕」、そして世界に仕える奉仕する「伝道」があることを語った。そして、第一の召命としてキリスト者とされる洗礼、第二の召命としてキリスト者の生き方の具体化、生活、職業、結婚、家庭を語り、神から召され、契約を結んだ民のあり方を語った。

講師による主題講演のほかに二名の青年が発題し、教会生活で出会った困難と克服の喜びを語った。三回にわたる分団には多くの時間を用い、少人数に分かれて、講演から発展して十分な語り合いのときが持たれた。青年の素直な言葉が語られることもよいときであった、と思う。

朝には、早天礼拝ののち「モーニングデート」があり、くじ引きでペアになった者同士が朝の散策をする。青年同士、青年と教職中には教職同士などというペアもあり、なかなかおもしろい。この時間も親しく話すことのできるプログラ

ムとなっている。晩には、二日目にキャンドルサービスとして御言葉、交誼と賛美による礼拝が持たれた。当日指名された青年たちが、修養会を通して受け取り思い巡らしたことを証しとして述べた。閉会礼拝は聖別会と呼ばれる、御言葉に聞いたのち、修養会を通して得た恵みと、これからの決意を参加者一人ひとりが語り、聖別帳に記名した。祝福を受け、献身の思いを新たに、それぞれの地に遣わされた。

全国教会青年同盟は、一九七〇年九月十三日、三崎

キリスト教社会福祉サマーキャンプ

はじめに愛がありました

キリスト教社会事業の若いワーカーを育成しようと

始められたこのキャンプが、開催地の教会・諸施設（遠州栄光教会、聖隷厚生園讃栄寮、小羊学園、おおぞら療育センター、十字の園）の職員協力により計画実施されました。

参加者は九州・四国・東海・関東・北陸から来られた学生六名と福祉施設職員六名の十二名で、一様に「見知らぬ土地」、「初めて会うスタッフ・参加者同士」、「今後のプログラム内容等について困惑・緊張しておりましたが、表情が

町教会に百名近い教会青年たちが集まり結成式を行い歩み始めた。この同盟の発足は、これに先立って同年七月に開催された福音宣教主催の「全国青年セミナリ」に出席した青年たち



分団、青年の素直な言葉が語られるとき

の青年部結成の申し合わせが発端となっている。前々年六八年、第15回教団総会では機構改正により青年伝道専門委員会がなくなり、また、前年六九年には全国教会青年宣教会議が

準備段階で急遽中止となっている。特に、第14回、第15回教団総会以降、顕著になつてゆく教団の混乱の中にあつても、なお青年伝道への熱意を持ち続けた青年たちが原動力となつて同盟結成へと導いた。

以来、「聖書信仰の上にたち、多難の時代のただ中で教会青年としての責任を深く自覚し、生涯を通じて教会に仕え、福音宣教の使命のために連帯して活動を推進する」という同盟結成の目的に過つて、青年と共に、チャプレン、リーダー、スタッフとしての牧師、伝道師、教務教師、信徒たちが協力し、セミナー、春、夏の修養会、高校生献身キャンプを開催してきた。

現在、セミナーは行われ

らはやる気に満ち溢れている様子がうかがえました。キャンプは開会礼拝から始まりました。その後聖隷三方原諸施設を見学し、中でも聖隷歴史資料館では、聖隷の歩み、先人たちの思いが凝縮一覽できることか

ら、参加者は真剣な眼差しで、聖隷の歴史説明に耳を傾けていたことがとても印象的でした。夕食後は、日本基督教団遠州栄光教会聖日夕礼拝に参加しました。実習生の中にはノンクリスチャンもいて、初めての「教会礼拝」には戸惑う姿も見られまし

た。二日目の日程を終えて、小羊学園の寮「のぞみの家」が宿泊場所となりました。二日目三日目は、サマーキャンプの本番、体験実習です。両日とも浜松十字の園にて朝食を摂り、十字の園礼拝に利用者や職員と一緒に参加するところから始まりました。

老人ホームでの食事は、もちろん利用者と同じ。食べ盛りりの参加者にとって、少々物足りないかな？という思いもありました。が、利用者と同一ものを食べることで利用者と共感できる。と考え、研修のメニ

ユーに組み込みました。礼拝後、参加者は、それぞれの希望実習施設へと別れて実習体験。昼食も各実習先で利用者と共に頂き、「利用者とのコミュニケーションを中心」という実習内容に沿った、それぞれに充実した実習になったようです。

等が積極的に発言され、参加者、職員ともに充実した時間を得られました。二日目の夜は、浜北で行なわれた打ち上げ花火を見物しました。三日目の夜は、スタッフ「自分たちでも花火をしよう」と声をかけて、参加者と一緒に一同盛り上がりました。そんなこともあってか、最初のころにはよそよそしかった参加者達もすっかり打ち解けて



体験実習・利用者とのコミュニケーション

員はクリスチャンでなくてはならないと思うこと、「自分がどのような考えでクリスチャンになったか」等が話されました。参加者からも実習での感想や質問



参加者は九州・四国・東海・関東・北陸から

和気あいあいの雰囲気ができあがりました。四日目最終日は、浜松アイアコニッセ母の家・復活礼拝堂の閉会礼拝と、十字の園会議室での「交わりと振り返りを実施しました。ここでは、「礼拝の説教」

「これまでのキャンプで感じた思い」、「職員証し」、「参加者・スタッフとも個々の目線に立った意見や想い」等が挙がり、参加者の感想を聞いて、私たちの思いがそれなりに伝わった感じが得られました。

キャンププログラムが終了し、その後のオブションアルツアーでは、キャンプ参加者全員で、浜松名物のうなぎを食べて、浜名湖を一望するロープウェーに乗りました。たった四日間でしたが、参加者同士すっかり打ち解け別れ難い様子には、お世話してよかったとつくづく喜びを感じました。

(恵川菜子子報／浜松十字の園)



キリスト教

認定試験の要領決定

第六回教育委員会

第34総会期第六回教育委員  
員会が、九月四日（月）、  
五日（火）の両日、日本基  
督教団会議室を会場にして  
開催された。主な報告と協  
議は以下の五項目である。

①二〇〇六年度クリスマス  
ス献金に関する件 毎年発  
行されている「みんなで生  
きよう」の紙面内容の確認。  
目標献金額は一二〇〇万  
円。

②精勤者表彰に関する件  
金斗鉦氏がデザインされた  
ものの中から、二〇〇六年  
度のバッヂ、表彰状をそれ  
ぞれ決定した。

③キリスト教教育主事養  
成に関する件 キリスト教  
教育主事養成のためのカリ  
キュラムを持つ聖和大学  
が、関西学院大学と合併す  
る予定であるため、その動  
向を見守りつつ、教育委員  
会としてはキリスト教教育  
主事という職務が教団にお  
いていかに大切であるかを  
再確認した。



早くもクリスマスに目を向け…教会の未来に思いを向ける

④キリスト教教育主事認  
定試験に関する件 次回の  
キリスト教教育主事認定試  
験の日時、会場、論文題等  
を決定した。10月に教団新  
報紙上に公告を掲載する。  
尚、試験担当は任期を越え  
ることになるが今までの慣  
例どおり今総会期の委員が  
行うことを確認した。

⑤「ユースミッション2  
006」に関する件 幹事  
より八月三日（木）〜十二  
日（土）にかけて行われた  
「ユースミッション200  
6」の報告を受けた。特に  
七日（月）〜九日（水）に  
行われた「ユースカンファ  
レンス」は青年たちが計画  
運営した手作りのカンファ  
レンスであったことが評価  
された。日本の教会青年が  
多く参加されることを期待  
していたが、各教区から推  
薦された青年の参加が数名  
に過ぎなかったことは残念  
であった。

実行委員会を含めて参加し  
た青年たちの多くはSCF  
（学生キリスト教友愛会）  
を通じての参加者で、その  
中には教団に属している台  
湾教会（四教会）の青年た  
ちも加わっている。その意  
味で、SCFの「ユースミ  
ッション2006」の参加  
は大きな励みであった。

京都教区  
宣教連帯の再構  
築を目指す  
望月修治

今「宣教連帯」のあり方をめぐる再検討が京都教区の大きな課題の一つとなっている。京都教区に属する七六の教会・伝道所の中で、地域の過疎化、高齢化による会員の減少、また教師が高齢となり退任した後、後任の教師を招聘することが困難な状況に立ち至っているところがいくつかある。

この夏、教区三役でいくつかの教会を回覧した。ある教会ではこの前の日曜日の礼拝出席者は五

教区  
コラム

名、そのうち三名は牧師と妻をして母でした」と話を聞いた。「宣教連帯（教職謝儀補助）」デナリ会員の人数は少なくなってきた。これは「京都教区宣教基本方針」を維持すること自体、困難を覚えている。しかしこの地域には他に教会はなく、この教会がなくなれば礼拝をする場がなくなってしまうから、互いに支え合い、協力することを私がかこいて灯火を消さないことが大事だと思う。精神に立った宣教連帯の再構築のために、何より七六の教会・伝道所が互いに今の課題や状況を知り合うことが求められている。

（京都教区総会議長）

教育委員会としては台湾から青年を迎える企画そのものが初めてのことであり、準備期間を含めて反省すべき点があるが、教団が『青年』の会議を主催出来たことは大きな喜びであり感謝である。

（加藤誠報）

消息

林 康夫氏（無任所教師）

四月二十四日、逝去。四五歳。愛知県に生まれる。一九九三年日本聖書神学校卒業後、清水ヶ丘教会に赴任。九六年から九九年まで校木教会を牧会した。遺族は妻の百合子さん。

井刈堅治氏（無任所教師）

五月二日、逝去。七二歳。東京都に生まれる。一九六二年青山学院大学神学科卒業後、辻堂教会に赴任。六八年まで同教会を牧会した。遺族は妻の堯子さん。

川村菊枝氏（隠退教師）

八月三日、逝去。九三歳。東京都に生まれる。一九三七年青山学院大学神学部女子卒業。六四年から七五

お知らせ

★キリスト教農村伝道推進協議会第24回研修会及び総会／時10月23日（月）11時半〜24日（火）11時半／所日本基督教団八甲田伝道所・農村センター／主題『私の農村伝道論』／農村に生きる人々と共に歩む者として／講演渡辺兵衛牧師／参加費3千5百円／締切り10月16日／申込み・問合せ奥中山教会（江戸まで）TEL・FAX019513512233

事務局報

補教師登録  
飯島 信、土田雅章（二〇〇六・七・二受允）  
教師異動  
なか 辞任門山路都  
辻堂 辞任安田治夫  
静岡草深 就任仲野隆介  
岩本 就任齋藤 篤  
静岡 就任関谷慶太  
山梨八代 就任大矢真理  
信濃村 辞任津布榮幸八  
金城 就任稲垣真美  
小松 就任河合佐紀  
就任穴戸基男  
名張 就任松島保真  
就任丹羽利夫  
土佐 就任梁 在哲  
就任藤岡友幸  
田瀬 辞任木下忠司  
就任山田 裕  
九州キリスト教社会福祉事業団 辞任多田一三

五日市	就任野口 敬	尾道久保就(代)宇佐美節子	所在地変更
南町田	就任西田浩子	松山古町	辞任三野慶仁
中野桃園	就任山口俊明	内海	辞任三野慶仁
阿佐ヶ谷	就任堀江綾子	石岡記念	辞任久我治子
野方町	就任姜傑来	西宮	就任池谷明高
八王子栄光就(担)本多峰子		夙川東	就任橋本かおり
小平学園	就任山田啓人	有漢	辞任柴多 泰
天門	就任主村かたる	五香	就任関根泰代
上賀茂	辞任稻生勝也	柿ノ木坂就(担)柳田かおり	
毛呂	辞任土橋 誠	東調布	就(担)中込己一郎
萩	就任新保恵子	土佐	就任福山隆一
八王子栄光辞任中西 碧		王子北	辞任福井正彌
長生	就任中西 碧	出島	就(代)森口あおい
馬見努禱	辞任高見敏雄	林間つきみ野	就任三原信恵
南大阪	就任柳瀬 聡	南豆	辞任星野正興
福島新町	就任瀧山結実	丸亀	就任川染三郎
山形本町	就任石井佑二	三・一	就任池田多美男
蕃山町	辞任北野慎吾	稻取	辞任奥田聖幸
宿毛栄光	辞任矢野敏太	近江兄弟社学園	就任宮本義弘
松前	就任北野慎吾	同志社大学神学部	辞任橋本滋男
松原	就任生原美典	北陸学院高校	辞任堀岡満喜子
昭島	就任飯田輝明	平和学園	辞任雨宮 隆
飯島	就(主)石川献之助	宝塚	辞任藤原信之
鹿兒島加治屋町	就(主)飯田輝明	尾道吉和	辞任上田好春
牛久	就(主)宮島牧人	福山延広	辞任北村健一
桜美林大学就(教)三谷高康		東北学院中・高校	就任三枝千洋
武蔵野緑	辞任山口智子	岩城	辞任山下 光
永山	辞任石川和夫	川之江	就任榎本栄次
静岡	就任鈴木玲子	高知中央辞任堀 真知子	就任野村幸男
山梨八代	就(主)大塚 忍	慈愛会慈愛寮	辞任河田貞子
信濃村	辞任津布榮幸八	高知中央辞任堀 真知子	就任野口幸生
金城	就任稲垣真美	板橋満男、淡路多恵子、	草刈孝昭、河田貞子
小松	就任河合佐紀	教師改姓	
名張	就任松島保真	藤岡友幸、石川和夫、	
土佐	就任丹羽利夫	吉川↓東京聖書学校吉川	
田瀬	辞任木下忠司	教団関係団体承認	
九州キリスト教社会福祉事業団	辞任多田一三	医療法人 聖愛会	

十二常議員会承認  
寺下幸生(二〇〇六・七・  
十二常議員会承認)  
教会設立  
つきみ野(伝道所より第  
二種教会へ)(新名称・  
林間つきみ野教会)  
新潟市赤銅一〇〇二の一  
(主)榎原喜三郎  
教会名称変更  
吉川↓東京聖書学校吉川  
教団関係団体承認  
医療法人 聖愛会  
松山市祝谷六の二二九  
(理事長)森 洋二  
(二〇〇六・七・  
十二常議員会承認)



# 伝道のともしび

## 奥中山の地

奥中山教会牧師 江戸 清

て、旅人たちの心の交流が始まるというストーリーだ。映画の撮影時、その駅の待合室のベンチに、奥中山教会の古い長椅子が使われた。地元で先行上映され、私も見たのであるが、ストーリーからすると、田舎の厳しい冬の状況の中での心暖まるエピソードが盛り込まれた映画であったが、今の時代にあっているのかは、分からない。しかし、私がこの映画を見て、感じたことは、私たちの教会は、この待合室のベンチのように、下で支え、安らぎの場、祈りの場として存在することで良いのではない

岩手県北部、青森県に近い所に位置し、標高四五〇がある過疎化の進んでいる町に教会はある。小学校も今年度から三校が一つに統合された。近くにある第三セクターの運営による奥中山高原駅は、無人駅にはならないが、小さな駅である。隣の駅は、無人駅である。昨年この駅で、実際にあった出来事をもとにして、映画が作られた。映画『待合室』である。待合室に

かと思っただけである。今、奥中山の地下をJRの新幹線が高速で通過している。新幹線が開通して、東北本線は、特急も急行も、見ることが無くなった。その様な中で、隣の無人駅がロケ地となったことを嬉しく思う。

奥中山は、「明治〇昭和」という時代にかけて、軍馬の育成が行われたところとして知られている。地元では、それを誇りにする人もいる。また、戦後、食糧増産の国策の下、満州などからの引き揚げ者が入植した地でもある。奥中山の教会の始まりは、開拓団の

団長をはじめとする数名の開拓者が、クリスチャンであったことによる。開拓当初は、掘つ立て小屋から始まったと聞く。その様な先人の苦労があつて今がある。今は、軍馬にかわって、酪農が営まれている。また高原野菜が作られている。平和になったしるしとして受け止めている。

今、奥中山教会は、知的障がい者施設「カナンの園」の利用者や職員が、礼拝出席の八〇九割をしめている。教会の付属施設ではないが、深い交わりの中に置かれている。

私たちが集う礼拝は、子どもから大人までが、毎週一緒に守る公同礼拝である。みんなで礼拝の当番を行っている。私が赴任して、最初に驚いたのが、司会者も、教会員が持ち回りで行って

いることであつた。時には、聖書朗読に介助を必要とする時もあるが、皆が助け合い、出来る奉仕をしている。礼拝の中では、ハブニングは毎週のように起きているが、しかしそれを越える恵みをいつも戴いている。祈りの内容に、心躍らされることはしばしばである。祈りを聞いて、如何に自分が、形式に縛られているか思うことがある。

また第一の日曜日以外は、毎週、礼拝の中で、持ち回りで個人、家族、グループホーム単位で「讃美証し」が行われている。以前、この様なことがあつた。グループホームのテーマソング『水戸黄門』（人生らくありゃ）が歌われた。今まで私が経験したことのないことである。毎週の礼拝がどのようなか、開けてみなければ、分からないのが、奥中山教会の礼拝の特徴だ。

話し下手なこの私が、「型」「枠」にはまったおさまりの説教をしている。でも、こんな私でも、ここにいることを赦されていると感じている。そして皆の笑顔に助けられ生きる希望を与えられている。

今、奥中山教会は、知的障がい者施設「カナンの園」の利用者や職員が、礼拝出席の八〇九割をしめている。教会の付属施設ではないが、深い交わりの中に置かれている。



2005.7.31「こひつじ文庫まつり」

## 隠退教師を支える運動(百円献金)

### 両丹地区推進座談会報告



建設的な意見が活発に出された懇談会

隠退教師を支える運動(百円献金) 両丹地区推進座談会が、七月十六日午後二時から四時まで、教団推進委員会多田信一委員長、滝川英子書記の出席のもと、大江野の花教会で開催され、教師信徒合わせて十四名の出席がありました。教会行事や急な葬儀等で欠席された教会もありましたが、それらの教会からも、この運動に対する厚いメッセージをいただきました。両丹地区は二〇〇五年五月に開催された第六九回(合同後第三九回)京都教区定期総会において、地区名称が「府下地区」から「両丹地区」に変更されたもので、亀岡市以北の市町にある九つの教会で構成されています。両丹とは京都府内の丹波、丹後の両地域を表す名称です。山々や田園の豊かな自然に恵まれた地域ですが、一昨年の台風二三号では大きな被害を受けたところです。

会場の大江野の花教会は福知山市(旧大江町)の由良川沿いにあり、鬼伝説で知られた大江山の麓に位置しています。開会礼拝では大江野の花教会の人見勝牧師からヨハネの黙示録二二章一〜七節をもとに「エデンの園の回復」と題したお説教をいただきました。座談会では、多田委員長の挨拶、京都教区総会議長の代理として福田正美常置委員の挨拶に続き、委員長から、隠退教師を支える運動百円献金について説明があり、質疑の後、出席者全員で懇談いたしました。質問や建設的な意見が活発に出し合われ、早速に取り組みたい」と述べられた教会もありました。最後に、福知山教会の野波洋牧師の祈禱をもって閉会いたしました。

なお、懇談の中で、謝恩日献金と百円献金の混同が起きているとの意見が多く、出席者から出され、今後推進していく上での課題であると強く感じたところで、梅雨の最中にあり、時々激しい雨が降ったりという天候でありましたが、主の導きにより実り多き座談会となったことを心から感謝いたします。(奥野力ネコ報)



鵜沼 裕子さん

## 生涯のテーマとの出会い



東京都生まれ。聖ヶ丘教会員。聖学院大学大学院教授、東京神学大学非常勤講師。

鵜沼さんは幼い時から、将来は何か研究的な仕事につきたいと思っていた。大学一年の時に受洗して、その願いはキリスト者としての生き方と結び合う、生涯の研究テーマを求めるものへと導かれた。

そんなある日のこと、教会の友人から日本聖書神学校主催特別講演会に誘われ、日本キリスト教史研究者、大内三郎氏の講演を聞いた。

大内氏はこれまで日本キリスト教史に関しては、各個教会や諸教派の記録、個人の伝記等を散見するのみで、学的研究はこれからの開拓分野であると語り、特にキリスト教信仰の立場からその内的世界と取り組む若い研究者が出ることを望んでいる。

生涯のテーマとの出会いを体験し、鵜沼さんは自分が求める

と結んだ。その講演は鵜沼さんにとってすべてが新鮮であり、特に最後の言葉は彼女自身のために用意された言葉として響いた。鵜沼さんは即座に、これをやってみようと思心に決めた。

その後、鵜沼さんは大内氏から直接指導を受け、観念だけではなく、実証的な作業をも学んだ。特に「日本キリスト教史を研究する者は自らが教会生活に忠実でなければならない」との大内氏からの言葉が鵜沼さんの信仰と研究の姿勢を形づくっている。

生涯のテーマとの出会いを体験し、鵜沼さんは自分が求める

旧聞に属するが六月五日〜七日札幌にて日本福音同盟(JEA)の総会が開催された。六日には再編20周年企画として一般公開集會が持たれた。公開シンポジウムとして「日本宣教の実態分析」「福音と原理主義」「神の前に女性としてどう生きるか」戦後60周年の節目にあたって」とのテーマに従って二時間語り合い、各グループとも大勢集め大いに盛り上がった。

夜は公開講演会が持たれ、私が「日本の教会の課題・今後への展望」と題して語らせていただいた。

## 日本福音同盟と共に

JEAの総会に教団総会議長が招かれ講演したのは初めてのことで、三人のパネラーが応答し、会場からの意見も交えて熱い時を共有したのである。

福音派の人々との協力は日本基督教団にとって生命線だと思う。09年に六年前の「沖縄宣言」を受けて「第五回伝道会議」を開催するJEAは他教派との対話を深めていくことを決議した。

そのあらわれが教団議長招待にも見られるのだろう。教団も対応して、日本の救いのため共に歩みたい。

なお新理事長に、教団を離脱した淀橋教会の峯野龍弘牧師が選任された。これを神よりの恵み、導きとした。

(教団総会議長 山北 宣久)